NIE実践報告

1．タイトル：新聞を読んで、さまざまな意見と考えを知ろう

2．学校名

埼玉県立狭山緑陽高等学校

3．実践者名（代表者名）

保坂　康夫

4．学年

3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合学習の時間　　１５８名

6．単元（本時の学習課題）名

情報収集講座」

7．目標(狙い)

社会人が新聞を読む目的と理由を知り、新聞に親しむ意義を理解し、生涯にわたる視野（情報環境）の拡大を図る。メディアの特徴について学び、情報に振り回されない姿勢を作る。

8．評価の視点

新聞を１ページから最後のページまで読めるようになったか。視野が広がったか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

9月９日から１２月９日までの総合学習Ｂの時間に毎週実施。合計10回

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞とは何か－社会人はなぜ新聞に目をとおすのか（オリエンテーションとアンケート）（１時間）
②新聞全体に目を通そう（１時間）
③「日本・世界・首都圏・埼玉県で何が起きているか？」（３時間）
④「新聞広告にはどんなものがあるのか－広告を研究しよう」（１時間）
⑤「投書を読もう－いろいろな人の考え方や生き方を知ろう」（１時間）
⑥「健康・医療、生活・家庭（料理、子供等）の最新知識を学ぼう」（１時間）
⑦全国紙と地方紙の違いを知り、地方紙を研究しよう（１時間）
⑧新聞とネットメデイァの違いを知り、メディアを賢く使おう（１時間）
＜留意点＞
出来事が発生した場所を常に確認する。
きれいに切り抜く。記事を選んだ理由を１行以上書く。
関心を持った出来事や記事を継続して調べ、深く理解していく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒は熱心に新聞に目を通した。そのためか感想もすぐに書くことができた。授業で見せる顔と熱心に新聞を読む時の顔の落差が大きい生徒が多数いた。また、生徒がこんな記事に関心をもっていると発見するのは教員にとって新鮮な発見だった。初めて全国新聞を見た生徒がいたのは驚きであった。

12．成果と課題

・担当者はＮＩＥから生まれる学習指導の広がりと深さを感じている。さまざまな教科での活用、新聞　閲覧から生まれる話題の多様性と深みを引き出す可能性がある。
・新聞の準備と事後処理、生徒のファイルリングについて改善が望まれる。
・生徒の家庭の新聞購読率は予想よりも低く、新聞が生徒数分集まるかどうか不安の出発だった。新聞収集の支援を広くお願いした。